

学校賞コメント

● 関西創価高等学校（大阪府）

学校賞、まことにありがとうございます。プラン・インターナショナル夏休み読書感想文コンクールへの応募は、本年で5年目を迎えました。戦争孤児、少年兵、スラムに生きる子ども、早すぎる結婚を強いられる少女—日本に住む生徒たちの日常の中では、決して出会うことがない「人生」と、読書を通して向き合い、考えを深めた時間は、生徒たちにとって、大きな力になると感じています。そして、今回の応募を通して、「内なる力。勇気がわく夏。」とのテーマの通り、一人ひとりの生徒たちが、自分の内なる力を信じ、自分のなかにある勇気を奮い起こして、身近なところから行動をおこしていくきっかけになればと願っています。これからも、読書を通して、他者の心に寄り添い、自ら考え行動していける心を育んでいきます。

● 広島女学院高等学校（広島県）

本校は創設以来133年にわたり「平和を創り出す女性」の育成を目指し、教育実践を行ってきました。2014年のSGH指定以降、国内にとどまらずグローバルな視点から「平和」の構築に向けたプログラムを課題研究として取り入れています。貴団体の実施するこのコンクールは、本校の教育目標にマッチしており、世界が抱えるさまざまな問題について深く考える機会にもなると考え、4年前から高校2年生の夏休みの課題のひとつとしております。このコンクールの課題図書を読んだ生徒たちは、その衝撃から、はじめは言葉を失い、「何を書けばいいのか」という壁にぶつかります。しかし、世界の女性が直面する課題を自らのこととして捉え、ひとつひとつの言葉を紡ぎはじめます。その小さき行動こそが、「平和を創り出す」ための第一歩だと考えております。その一歩を踏み出す貴重な機会をこのコンクールが与えてくださっていること、そして、学校賞までいただきましたことに、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

● 弥富市立弥富北中学校（愛知県）

コンクールの参加は今年で5年目となります。毎年、コンクールの課題図書の中から少しずつ、学校図書として本を購入し、蔵書も今では180冊を超えました。これらの本を「世界と出会う本棚」というコーナーや総合学習教室に置き、全校生徒に紹介しています。今年は、課題図書から2冊を選択し、30冊ずつ準備しました。60冊の本を、7月中旬から8月末までの50日間に、クラスや部活ごとに、ひとりが20日間ほどで読みすすめ、次の人に手渡していき、学年生徒150人全員が読んで感想文を書くという取り組みをしました。本校の1年生は、総合的な学習の時間に国際理解学習をすすめています。「夢みる力～輝く明日に向かって～」のテーマのもと、SDGsを軸にして、世界の現状を知り、社会の課題を自分ごととして捉え、行動できる生徒の育成を目指しています。この読書感想文コンクールへの参加も、学習の一環として、価値あるものとなっていることを実感しています。